

会議録

会議名	嵐山町総合戦略策定委員会(第4回)						
開催日時	平成27年9月18日(金)			開 会	13時30分		
				閉 会	14時30分		
開催場所	嵐山町役場 302・303会議室						
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1)会議録の署名人の任命について (2)嵐山町住民意識調査報告書(自由意見)について (3)嵐山町人口ビジョン及び嵐山町総合戦略(案)の検討について (4)パブリックコメントについて (5)その他 4 閉会						
公開・非公開の別	公開			傍聴者数	1名		
非公開の理由							
委員出欠状況	会 長	内田 方巳		出	委 員	清水 正幸	出
	副会長	新井 茂		欠	委 員	佐藤 浩二	欠
	委 員	根岸 福壽		出	委 員	鹿倉 貞二	欠
	委 員	小林 荘治		出	委 員	荒井 忠正	出
	委 員	根岸 美津子		出	委 員	内田 裕一	欠
	委 員	鈴木 浩		出	委 員	青木 裕子	出
	委 員	内田 奈芳美		出	委 員	宮本 紀子	出
	委 員	山田 朋美		出	委 員	伊藤 浩次	出
	委 員	山田 滋之		出	委 員	田中 操	出
事務局	担当課長 青木						
	担当副課長 伊藤						
	担当主査 松浦						
	(株)パブリックセンター 板倉・木谷						

次 第	顛末
1 開会	青木課長
2 あいさつ	<p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日で4回目になりますが、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今回は前回までのご意見を参考にして作成した、総合戦略(案)を中心に皆様方からご意見を頂きたいと思えます。また、嵐山町住民意識調査報告書(自由意見)が出来上がりました。私もこの内容を見ましたところ、嵐山町もいろんな問題を抱え、世代間の考え方にもギャップがあるなど、参考になったと同時に、多少の勘違いがあるということも感じられました。</li> <li>・本日も皆様の意見をまとめまして、総合戦略を作って参りたいと思えます。</li> </ul>
3 議題	<p>(1)会議録の署名人の任命について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、今回は清水正幸委員と荒井忠正委員を議事録署名人とすることとなった。</li> </ul> <p>(2)嵐山町住民意識調査報告書(自由意見)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を行った。</li> <li>・役場内において課長をはじめとして内容を見ている旨の説明を行った。</li> <li>・会長より質疑を求める。</li> </ul> <p>(荒井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この内容からは、役所として良いものだけを取り上げて頂きたいと思えます。短所の部分は今後の参考として前向きに考えて頂くということをお願いしたいと思えます。</li> </ul> <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに厳しい意見や要望が書かれております。理想的なところもある希望もありますが、予算等難しい面もございますので、良いところを取り上げて進めて頂けたら有難いと思えます。他にご意見が無ければ次の議題に移りたいと思えます。</li> </ul> <p>(意見等なし)</p> <p>(3)嵐山町人口ビジョン及び嵐山町総合戦略(案)の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を行った。</li> <li>・会長より質疑を求める。</li> </ul> <p>(田中委員)</p>

・少し細かくなってしまうのですが、資料4の74ページの6番目の不妊助成事業について、「不」と付くとマイナスイメージがあるので、子どもを授かりたいという希望がもう少し持てるような事業名になればと感じました。

(事務局)

・町の予算名なので、このような事業名としておりますが、実際に事業を行う場合は、ご意見を参考にした事業名としたいと思います。

(内田会長)

・他にご意見はございますか。

(内田(奈)委員)

・最初に町長さんがいらした時に、ある程度客観性のあるデータを示した上で施策を提示していきたいとお話しされていきました。データとしてかなり出して頂いているので良いと思いますが、駅周辺未利用地及び空き家について根拠のあるデータがあればよりクリアだと思いました。空き家の活用については3軒が目標ということですが、国の土地建物活用データが町単位であれば、より分かりやすいと思います。若い方も駅前に関して色々とおっしゃっています。

(事務局)

・空き家の他に空き店舗、空き地などがありますので、それらも含めて活用していきたいということで3軒と目標を設定しております。嵐山町全体の空き家の軒数については、一昨年、全町的に調べたものがあり、どういった状況なのか把握は出来ています。ただ、駅周辺のみ状況は把握しておりませんが、エリアとしては考えています。

(内田(奈)委員)

・各施策には目的とするエリアが存在しているということですよ。

(事務局)

・設定があるところと設定の無いところがあります。農業についても記述しているとおり嵐山溪谷周辺として考えています。整備するものについては駅前とか杉山城跡など、全く白紙状態というものはございません。

(内田(奈)委員)

・空間と結びついているものは明示されている方が分かりやすいと思いました。

(内田会長)

・他にございますか。なければ、この案をもってパブリックコメントを取ることとしたいと思います。

(4)パブリックコメントについて

- ・事務局より説明を行った。

(内田会長)

- ・このようなかたちで実施するということでした承願います。

(5)その他

(内田会長)

- ・予定としてこれで今回の会議は終了になりますが、多少、フリートークのかたちで意見があれば、参考にしたいと思います。何かご意見のある方はございますか。

(荒井委員)

- ・色々と許可や予算が発生するので、この計画の中に入れて頂く必要はありませんが、人口減少の歯止めにはこういうことも必要という考えを申し上げたいと思います。生まれたばかりのお子さんは保育所で保育となっていると思いますが、もう少し幅を広げて、公立の保育所での預かりを考えて頂きたいです。これには予算が伴いますので少し大変かもしれませんが、例えば学校の空き教室を使えば可能であると思います。あくまでも予算が無ければ出来ませんが、参考までに聞いていただきたいと思います。
- ・働き盛りの夫婦に対して軽減税率を取り入れれば、出生数が増えると思います。これにも町の財政がありますので、やれというものではありません。無理をするとマイナスの面が出てきてしまいます。ただし、こういう方法もあるということを示し上げました。以上です。

(内田会長)

- ・ありがとうございました。他に何か意見がありましたら発表して頂きたいと思います。

(荒井委員)

- ・もう一つよろしいでしょうか。以前の会議でも意見が出ましたが、IT技術を持った人達が嵐山町に住めば就労機会が拡大すると思います。嵐山町は環境が良いところです。IT関連会社が立地すれば財政的に豊かになると思います。

(内田会長)

- ・他にご意見はございますか。

(伊藤委員)

- ・今のご意見に追加したいと思います。千葉県に白井市というところ

があります。現在クラウド化の進展に伴い、データを集積するセンターが数多く建設されています。白井市は都会からも近く、また災害が少ないところです。そういった観点から嵐山町も白井市と条件が似ていると思います。例えばデータセンターの誘致をするなどIT関連会社の誘致に対し、補助などをして頂くと良いと思います。都心に近いながらも緑豊かな環境の中で、IT関連会社で働く人たちが増えれば良いと思います。

(内田会長)

・他にご意見はございますか。

(内田(奈)委員)

・市民意識調査の自由記述に一個一個答えていく必要はないにしても、これだけ意見が寄せられています。子ども医療費窓口払いについても複数の方が意見を寄せています。「こういうことを聞いて、こういうふうを活かすつもりです」とか、「こういうふうに分析しました」とか、町民にお返しする必要があるのではないのでしょうか。聞くだけ聞くのではなく、書いてあることを受け止めて、このようにしていきたいと何らかのかたちでフィードバックすることも考えたらどうでしょうか。

(事務局)

・今、子ども医療費窓口払いのお話がありましたが、実は来月から開始することになっております。町の方でもお知らせしておりますが、そのことがあまり知られていないということが今回の自由意見で分かりました。この自由記述については庁内会議である、まち・ひと・しごと創生推進本部におきましても内容を受け止め、共通の認識を持って事業を進めていくこととなっております。

(内田(奈)委員)

・行っているということを書いてくれれば安心すると思います。そういうふうにお返し頂ければと思います。

(事務局)

・広報でこのようなアンケート調査を実施し、このように検討させて頂きましたということをお知らせしたいと思います。

(伊藤委員)

・一つだけアイデアを提案させて頂きます。実は家の近くに老人ホームが建ったのですが、入居者が一人ということを知っております。それに対してスタッフが大勢いるという状況です。そこで、老人ホームと保育所を一緒に建てたらどうでしょうか。時間を持て余している高齢者の方々と、お子さんの面倒を見てもらいたいという方の

利害が一致すると思います。そういった総合的な建物が嵐山町にあってもいいと思います。

(青木委員)

- ・それに賛成です。前に社協で行っていたひだまりの丘という認知症の小規模型のホームがありまして、そこを利用して子育てサロンを行いました。上の階に認知症の方が住んでいたのもので、試しに呼んでみたらその方は笑顔になったのです。
- ・今は核家族化で、子ども達もおばあちゃんと一緒にいるという機会があまりありません。私には寝たきりの母がいるのですが、私の孫がそれを見てびっくりしていました。そのように子どもと高齢者が触れあう場というのが大切で、子どもにとってもいい経験になるし、施設に入っている高齢者の方もすごく喜ぶのです。
- ・また以前、菅谷小学校の空き教室を利用して敬老会を行ったことがありました。平日でしたので、校長先生に「生徒さんに何か交流するものをやってももらえませんか」とお願いしたところ、快く承諾して頂きました。会の途中で2～3クラスの子供達に来て、歌や楽器、お遊戯などをして頂きました。高齢者の方たちは生きいきとしていました。私もそのようなものが欲しいと思っています。

(山田(朋)委員)

- ・高齢者と子どもの繋がりというのが昔は自然にありました。高齢者と子どもの交流はお互いに得るものがあるのです。私は孫と一緒にいますが、夫婦二人きりの時よりも笑う回数が増えました。うるささというのは無く、有難さがすごく強いのです。私の年代でもお子さんや孫と一緒に住めない事情のある方は沢山いらっしゃると思います。婦人会の方たちはボランティアでお子さんを見て頂く機会が多いと思います。そういう会に時間が自由になった人たちが入っていけるようなパイプが出来ればすごくいいのではないのでしょうか。ぜひ、横の繋がりを上手く作って頂いて、人と人のふれあいが生まれるかたちで進んでほしいと思います。大変だと思いますがよろしくお願い致します。

(内田会長)

- ・他にございますか。

(宮本委員)

- ・私も様々なグループ、世代を超えたグループなど、横のつながりというものを作り、そういった人たちを活用し、より多く参加してもらいたいと思います。いつもと違った人と触れ合うだけでもボランティア効果というのはあるのです。定年後の長い人生において、ま

だまだ元気な人達が沢山いると思います。そのような活動に参加して、元気なまちを作ってほしいと思います。

- ・子どもの事業に対しては保育園、町、施設とありますが、それを利用する人たちも巻き込んだ事業計画を作って頂ければなお良いと思います。
- ・嵐山町は自然が美しいところです。国立女性教育会館において20回以上音楽会を開いて、一流の方を招いているのですが、「こんな素敵ところで演奏できる」と喜ばれます。町の文化事業の中に音楽家達を呼ぶ場を作ることも住民の活性化や子ども達の情操を養うことにもつながります。国立女性教育会館の会場使用料は安いですし、地方の文化支援ということでリーズナブルにオーケストラを呼ぶことができると思います。和文化奨励というものも文化庁で行っており、そういった計画を立てて申し込むと補助金も出るそうです。ただ、その申請書類を作るのが難しいのでそこで足踏みをしてしまうのですが、是非行政の方で手助けして頂きたいと思っています。町のボランティア事業に登録している方も大勢いますので、そういったことも考えて頂きたいと思います。

(内田会長)

- ・貴重な意見をありがとうございます。私は本格的に住み始めてまだ10年ほどですが、感じているのは全体として住民意識の温度差があるということです。ボランティアをやっている人と、そういったことに全く興味を持たない人がいるというのを強く感じます。私の住んでいる所は元々農家の人たちが多くいるところで、働くことが趣味という人が多く、老人会があっても参加せず、催し物を開いても出てきません。逆に新しく来た人たちはそういう催しに積極的に参加しており、同じ地区の中でも温度差が感じられます。そういったものを同じ状況にしていくことは非常に苦勞しています。また、そういった事を行うボランティアがいないというのが現状です。農業をやっている方と元々サラリーマンだった人達にも温度差があり、バランスが取れないという面もあります。我々も何とかして催し物などに皆で参加してもらおうと努力しておりますが、非常に難しい部分があります。基本は地元の人たちが引っ張っていくけれども、行政の補助が無いと難しいと感じております。
- ・私はサラリーマン時代、山間地などにニュータウンを作るという仕事を3、40年行っておりました。現在、私の地区でも山林開発という話が出ています。地主の方は「農業を辞めたい」「山を持っていても仕方がない」「土地を買う人がいれば手放したい」ということ

でどんどん売ってしまい、更地にしてしまうのです。平地や舗装道路は雨を吸収しないので、この前の様に大雨が降ると川が氾濫してしまいます。私の地区でも水位が堤防の高さまであと1mになりました。

- ・自然環境において、決してよくない方向に進んでいるような感じがします。今から思うと耕作していない土地があるのに、また山林を開発しようという方向は本当にいいのでしょうか。嵐山町も今あるものを見直して、新しい方向性を見ていくことが必要だと感じています。今あるものは貴重な財産で、それを有効的・総合的に活用していき、それにより今の環境を守るという方向に向かっていってもらいたいです。
- ・これは批判にもなりかねませんが、誤解を恐れず話をさせて頂くと、人口を増やすことがはたして良いことなのでしょうか。ニュータウンを作って人を増やしたことによって住んでいる方が高齢化した場合、高齢者ばかりになってしまうこともあります。高齢者が増加すると福祉関係でも費用がかかってくるということにもなります。ただいたずらに人口を増やすなど、目先のことで進めると間違った方向に進んでいくと思います。

(宮本委員)

- ・一つよろしいでしょうか。現在、嵐山溪谷のバーベキュー場に人がたくさん来ております。観光協会の方たちにはお願いしたいのは「辛もつ焼きそば」は素晴らしいのですが、子どもや高齢者でもいただける、ヘルシーな視点を入れた新しいメニューの開発をして頂ければと思います。

(根岸福委員)

- ・商品開発ということで会議を行い、研究しています。そのうち新しいB級グルメのメニューの発表があると思います。

(宮本委員)

- ・嵐山町は都会から近く、交通費もそれほどかからず、渋滞も心配せずに利用できるという土地柄を活かして、いつまでも繁栄が続いてほしいと思います。

(内田会長)

- ・皆様から多くのご意見をいただきました。何か他にご意見がなければここで終わりにしたいと思います。

4 閉会

青木課長



上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

平成27年10月 21日 署名委員 清水 正幸

平成27年10月 21日 署名委員 荒井 忠正